



考  
え  
マ  
ウ  
ン

第五十八回 『夜明けを告げるルーのうた』  
と「マカロニえんぴつ」

勝手に広告欄

理由があれば、「好き」に  
迷わない。  
-大人-

弦楽器イルカ  ⇔ 友人



# 目次

第五十八回 『夜明けを告げるルーのうた』と「マカロニえんぴつ」～G から U へ～ . . . . .	1
--	---





第五十八回 『夜明けを告げるルーのうた』  
と「マカロニえんぴつ」

勝手に広告欄

理由があれば、「好き」に  
迷わない。  
-大人-

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

第五十八回 『夜明けを告げるルーのうた』と「マカロニえんぴつ」～GからUへ～

『夜明けを告げるルーのうた』って映画について、そもそも同じ湯浅監督の『マインド・ゲーム』とか『DEVILMAN crybaby』を興味深く観てるし、監督ではないけど参加してる『クレヨンしんちゃんガチンコ！ 逆襲のロボとーちゃん』も俺的アニメ・ベスト5に入る名作だと思ってるんだけど。

でもこの映画、みんなよくわかってないと思うんだよ。もちろんいつもの妄想なんだけど、ちょっと言っときたい。(あと、そういえば今更のツッコミだけど、以前ウマシカでやった『君の名は。』の回、一番失礼で面白いのは、Uが「飛行機で観て面白かった」って古市さんっぽく言い切ったとこだよね。暇つぶし+小画面この上ないクセに満足できるUの神経がどうかしてる真骨頂が垣間見れたよ)

『夜明けを告げるルーのうた』、まず、パッと見『ポニョ』なんだけど、それはカモフラージュだと思うんだよ。この映画、完全に『君の名は。』の裏なんだよね。アンチテーゼになってんだよ。

そもそも『君の名は。』ってセカイ系の家元みたいな、厨二にとって気持ち良い部分しかないオナホ映画って俺はあえて言いませんけど。

この『夜明け〜』は逆にある意味、露悪的でくだらないんだよ。地味な演出ではないけど、いわゆる厨二的なカッコ良さをワザと排除してる。ハッピーエンドって言うほどでもないし。ここがまず、『君の名は。』を絶対意識してると俺は思う。

それから、MVっぽさ。『君の名は。』はRADの壮大な雰囲気MVだったと俺は思ってるんだけど、『夜明け〜』は、斉藤和義「歌唄いのバラッド」のかなり本格的なMVになってる。改めて「いい歌だな」って思わせる力があるよ。「RADより俺は絶対和義派。世代だし」って監督の主張を感じるんだよ。

(これは完全に妄想だけど、『前前世』って三回繰り返すんだけど、『歌唄いのバラッド』も「うたうたいはうたう」って三回繰り返すんだよ。役場の放送もなんか両作でかぶる感じがするし。妄想だけど！)

更に、俺が前に言った、「避難回避」問題。『君の名は。』は避難部分が地味だから全カットなんだけど、『夜明け〜』はそこをいちいち細かく描くんだよ。ちょっとダレるくらい。

でも、両作品とも震災を意識した作品である以上、「本来そこは避けて通れないはず」って監督が判断したんじゃないかと思う。

んで、ここが一番重要だと思ってるんだけど、「人命を救いさえすればハッピーエンドなのか？」問題。

『君の名は。』は「気づいたら人死にゼロだから、これハッピーエンドだよ？ とにかく人が死ななきゃいいんだろお前ら厨二は？」って上から視線を俺は勝手に感じたんだけど、『夜明け〜』は、死なないにしても行方不明者が出る。

亡くしたはずの大切な人が人魚になって高齢者の前に現れて、一緒に人魚になって海に消えていく。ここ、世間にほぼ理解されてない部分だと思うんだけど、何を表してる

わかる？ 観てないのに分かるワケないよね？

これ、津波でたくさん亡くなったってことを言ってるんだと俺は思う。そこは否定できない現実だから。でももしかしたら、あの世で大切な人とまた出逢ったり、単に亡くなったワケじゃなくて人魚になったのかもしれないって、そういう追悼の意味を含ませてるんだよ。

俺が『君の名は。』で最も違和感持った点は、震災を意識してるワリには全員なんか助かったって、それ現実と違うし「実際亡くなった人たちをなかったことにしたいのか？」って思ったんだよ。

厨二的には全員助かった方がカッコいいに決まってるけど、現実はそうじゃない。災害で亡くなる命はある。そこをどう受け止めて乗り越えるかの葛藤こそが、ドラマの真骨頂なんじゃないの？

『夜明け〜』がそこまで描き切れてるのかって、断言はできないけど、少なくとも寄り添おうとしてるなって俺は勝手に感じた。

んで最後、まあネタバレだけど監督もはっきり言ってるから書くけど、「心から好きなものを、口に出して『好き』と言えているか？」という現代への疑問がストーリーの出発点だっていう。これ、『君の名は。』は厨二だから、はっきり好きって言わないじゃん。その曖昧さをいって思うのが厨二だなって俺は思うんだけど。

好きな物を「好きだ」って言った瞬間から、責任とか後悔とか「人生の重み」が生じるんだよ。厨二の青春はふわっと曖昧でいいけど、大人はそうじゃない。納税して国や社会を支えんといかん。

『夜明け〜』の「ルー」って人魚がポニョ並みに幼く見えるから、「好きだ」ってどういう意味かちょっとわからん部分があるんだけど、あえてそれを言うことで大人になる、区切りの大切さを感じたよ。

んで、結構前から言ってる「マカロニえんぴつ」ってバンドがすごい良いいって話に、強引につなげるんだけど。「マカロニ〜」の良さはまさに、いまどきびっくりするくらいストレートなラブソングで、「愛してる」って何回も言うんだよ。ここまでストレートに「愛してる」って最近歌われないなって改めて気づかされた。でも大事なことだし、一周回って新しいと感じた。

しかも失恋の歌が多いから、切なさやひねりもあるし。

こういう作品が好きだと俺も言いたい。うまくまとめられたかはわからないけど。

今回はこんな感じ。どうかな？







---

考えるウマシカ～第五十八回 『夜明けを告げるルーのうた』と「マカロニえんぴつ」～

---

版番号の予定

{{-  
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---